

令和元年度 三木市金物振興審議会議事録

1 日時 令和元年8月26日(月)午後2時00分から3時30分

2 場所 三木市役所4階特別会議室

3 会議次第

- (1) 開会
- (2) 委嘱状交付
- (3) 市長あいさつ
- (4) 委員・事務局自己紹介
- (5) 正副会長選出
- (6) 正副会長あいさつ
- (7) 議事
- (8) 閉会

4 会議に付した議事

- (1) 平成30年度主要施策実績について
- (2) 令和元年度主要施策について
- (3) 三木金物産業の振興策について
- (4) その他

5 議事の概要

事務局より上記(1)・(2)を説明後、(3)三木金物産業の振興策について協議する。

A ただいま、平成30年度実績と令和元年度の施策等の説明がありましたが、質問やご意見がありましたらお願いします。

B 平成30年度と令和元年度で金額が違っている事業があるが、これはどうしてなのか。

事務局 平成30年度の金額は実績額で令和元年度は予算額です。

A 今年度は利工連三木大会があるので、その補助事業が昨年度は無かったものとなっている。

C 金物大学についても、30年度実績額と元年度予算額に倍ほどの差があるが、昨年度も予算取りは今年度と同じくらい取っていたのか。

事務局 毎年、一定の定員を見込んだ予算取りをしているが、応募人数が定員に達しない場合は、予算額と実績額に差が出ることとなる。P10に金物大学卒業生数の推移を載せているが、年によって人数が増減しており、近年は若干減少傾向にある。来ていただければ必ず勉強にはなる。

D PRの仕方を考えていかななくてはならない。金物大学の参加者に評価を聞くと、内容は充実しているとの事である。その声を伝えていかないともったいない。

事務局 一人でも多くの人に来ていただく、また、再度来ていただけるようにPRしていきたい。

E 募集の仕方を考えてはどうか。紙とロコミだけでは弱いので、写真や映像など視覚に訴えるツールを使った方が良い。魅力が十分伝わっていない。

B 工場見学の場所は毎年固定しているのか。マンネリ化していることによって参加者が減っているということはないか。

A 日程的には目一杯つまっている。また、それぞれの受け入れ先において、時代のニーズに合った講義内容に変化していただいている。

C 工場見学については、体験中心におこなっており、割と好評をいただいている。

E 製品を組み合わせたりすることによって、飽きのこない内容にしてはどうか。

A 参加者が毎年変わるのであれば、やはりPRの仕方ではないか。

事務局 ホームセンター従事者など、業種によってはどうしても業務上、祝日等の日程の都合で参加しづらい事もあると聞いている。

E 実際の製造現場を見ることによって商品説明に箔がつくので、DIYアドバイザーにこそ参加していただきたい。

E 金物大学という名称が堅いのかもかもしれない。

事務局 現在の3日という日程も含めて、再協議が必要かもしれない。

- D 市のHPに募集記事を載せるときに、文章以外に動画や写真、参加者の感想など、読み物のようなページを作ってもらえれば、参加希望者に紹介する場合に勧めやすい。来年に向けて準備してはどうか。
- 事務局 毎年、NHW賞のパンフレットを作成し、全国的に配っている。そこに載せる方法も考えられる。
- F 金物大学のカリキュラムについて、非常にタイトな感じが見受けられる。複数年で完結させるようにするなど、日程的な見直しも考えてみてはどうか。
- A 貴重な意見ありがとうございました。金物大学については、まずは写真を載せたリーフレットをNHW賞のパンフレットと同封するなど、できることから始めていっていただきたいと思います。
他に意見はありますか。
- E みきかなもんプロジェクトのうち、金物コーディネーター事業についての進捗はどうなっていますか。
- 事務局 金物コーディネーターには三木金物の進むべき道についてご意見をいただきながら積み上げてきた結果、「鍛冶屋ツーリズム」という方向性が決定した。今後はそれを実行していくという段階でご尽力いただく形になる。
- E 金物展示館について来場者数を増やすという意味で、金物鷲の常設をしたいという想いが以前からあり、金物鷲活用事業とかなもんプロジェクトと合わせる形で進めて行きたいと考えている。「鍛冶屋ツーリズム」のなかで、最後に金物展示館の金物鷲を見に行きましょうというプログラムになればよい。まずは三木に来ていただいてなんぼだと思う。
- A 三木工業組合協同組合で作成した工場見学のパンフレットを竹中大工道具館に常設し、見学希望があった場合にはジャンボタクシーをチャーターしていただいて市内の工場を回るというプロジェクトを立ち上げており、年内には何回か実施したいと考えている。また、海外の方が見えた時のために、国際交流協会に通訳を派遣いただけるよう話もしている。
- F 商工会議所の方でも、道の駅の金物展示館への英語版案内リーフレットを作成しており、金物鷲も載せている。

- D 今ある展示館に金物鷲をという話もそうだが、金物資料館、金物展示館、道の駅などそれぞれがバラバラにあるのではなく、集約した施設で、ここを見てもらう、ここに来てもらおうといった拠点が欲しい。
- B これだけの金物の歴史を次世代に残していくという意味でも、バスが停車できて、写真や資料だけではなく、本物の製品や作業を見てもらえるような施設があればと思う。
- F 玄関を入れば正面に金物鷲が据えてあって、映像の部屋や職人がいる部屋、体験の部屋がある、そして、食べて飲んで買い物ができる、そういった施設が一体となったもので、バスが寄り付ける、道の駅の周辺をそういった拠点にしてはどうかといった意見もある。
- D 道の駅の辺りは、イベントもできて、観光も呼び込める、勉強もできる、買い物もできる、そういったイメージで造られて途中で止まってるように思えてならない。
- E 最近は入場料や体験料など、お金を払っても体験したいと考える人も多い。「鍛冶でっせ」でもあれだけ体験に人が並ぶ。金物大学のような事業でなくても、いつでも来て体験できるようなものも考えられる。
- F だんだんと職人が少なくなっている。そういう課題があるにもかかわらず一歩進めていない状況もある。例えば施設で職人の仕事を見せるといった事をしていただくといった方向性もある。そこに補助を出すということも考えられるのではないか。
- E それを見た若者が自分もやってみたいということになれば、後継者育成にもつながる。
- A 施設については一朝一夕に実現できるものではないが、言い続けて考え続けていくことが重要だと考える。
また最近、海外からの観光客が年々増加していることは間違いないので、例えば、ホームページの英語版を作るだけでも大きな需要があると思う。
- E 金物展示館の小間の出店者も減少傾向にある。現在のところ来場者数は年間1万人だが、もっと増やせるはずだし、もっと売れるはずで、そうすれば出展者も増加すると思う。なので、景気づけという意味でも金物鷲を展

示したい。

- G 場所として道の駅という意見がありましたが、市としても、今後公共施設の再配置等、見直しをしていかなければならない。そのなかで、金物業界にとってよい場所、再利用できるような施設が出てくる可能性もあるので注目していただきたい。
- E 学校であれば教室ごとに違った品目の金物でといった使い方が出来るかもしれない。
- A 人口が減っていく中で新たな施設を建てるというのは時代に逆行しているとは思いますが、人を呼び込むといった意味で進めて行きたい。
- G 既存施設のリニューアルを含めて考えていただければと思う。
- A いろいろな意見が出ました。実現できるところから実現していかなければいけないと思うので、よろしくをお願いします。
- E 最近のインターネットでの情報拡散スピードには目を見張るものがある。SNS等を上手く活用し三木の認知度を上げていくことが必要である。
- A 以上で意見も出尽くしたと思われまますので、本日の三木市金物振興審議会は以上で閉会とします。ありがとうございました。